

第2回 地域活動報告会 開催概要



開催の目的

本学は、文部科学省『地(知)の拠点整備事業』の採択を受け、宗谷地域、とりわけ稚内市及び利尻町との連携を深め、地域の教育力向上とまちづくりで協働する地の拠点を目指している。

地域活動報告会は、当該事業の推進を図るため本学が定期的実施するもので、第2回である今回は、本学におけるこれまでの地域活動の成果と、今後の活動の予定や展望等について報告が行われた。

開催の概要

<日時>平成27(2015)年2月12日(木)

15:00~17:00

<場所>稚内北星学園大学 1301号教室

<参加人数> 49名

<プログラム>

<第1報告>伊藤 亮 (3年)

「温泉街に、あかりをつけて。」

～「地方の時代」映像祭・優秀賞受賞報告～

<第2報告>松尾 響・江戸 勇介 (4年)

猿払遠隔授業で学んだこと

<第3報告>武田 大貴 (2年)

まちづくりサロン in 稚内北星学園大学

～若者が変わる! 楽しいマチ 稚内～

<第4報告>若原 幸範 (情報メディア学部講師)

「まちなかメディアラボ(まちラボ)」の可能性

<第5報告>安藤 友晴 (情報メディア学部教授)

アクティブ・ラーニングを支援する

『わくほくメディアラボ』

総合討議(質疑・応答)

報告の要旨

<第1報告>

伊藤さんからは、「地方の時代」映像祭、市民・学生・自治体部門で優秀賞を受賞した映像作品制作の経緯と過程についての報告と、受賞作品の上映があった。これは授業の一環として、学生3人で作成したもの。メンバーの一人が豊富町出身で縁があり、「豊富温泉雪あかり」の様子を撮ってほしいと声をかけられ、制作に至ったもの。映像では、豊富温泉街で、以前からの住民と湯治のための移住者が、協力してお祭りをつくりあげるまでの過程を映像にした。映像はYouTubeにて視聴可能。



伊藤亮さん

<https://www.youtube.com/user/wakhok1987>



※ 本学のYouTubeサイトにアクセスされます。

江戸勇介さん



松尾響さん

<第2報告>

松尾さん、江戸さんからは、猿払村浅茅野小学校の児童を対象とした、遠隔授業の取組について報告があった。猿払村教育委員会からのご提案で、教員志望の学生が講師となって、Skypeを活用し算数と国語の学習支援を4回行った。児童からは好評で、2015年度は2校の小学校に6回の授業を予定している。

稚内北星学園大学の公式Facebookページがオープンしました。

<http://facebook.com/wakhok>



報告の要旨



武田大貴さん

<第3報告>

武田さんは、自身がファシリテーターを務めた「まちづくりサロンin稚内北星学園大学」について報告した。これは、高校生や大学生を含む若者が主体となったサロンで、稚内が元気になる楽しいアイデアを考えようというもの。当日は多くの提案が出され、若者のまちづくりへの意欲が見られた。今後は、「商店街活性化」に向けて関わりたいとのこと。サロン当日のアイデア集は、本学webサイトから閲覧可能。



<第4報告>

若原講師からは、「まちなかメディアラボ(愛称:まちラボ)」が紹介された。まちラボは稚内市中央商店街の空き店舗に設置された本学のサテライト施設で、学生たちの活動拠点、観光やまちづくりに関する情報収集・発信拠点としての役割を持つ。

また「メディア表現指導員」が常駐し、パソコンの使い方やデジカメの写真加工、動画の編集、チラシやポスター作成等の相談をすることもできる。他にも、子どもの学習スペースとして、ミーティング・休憩場所として、それ自体がまちづくりの拠点になるような場として位置づけられている。



http://www.wakhok.ac.jp/image2011/news/2014saron_neta.pdf

※ PDFファイルが開きます。

若原幸範講師

手前は
中野窓香
メディア表現指導員

<第5報告>

安藤教授からは、「わくほくメディアラボ」が紹介された。これは学生が「アクティブ・ラーニング」を行うための協働学習をサポートするための施設で、4~5人の学生が作業できる机と椅子、コンピュータ・プロジェクタ・ホワイトボードといった機材を設置している。

さらに「わくほくメディアラボ」での学習を支援するために「学習コンシェルジュ」を配置し、指導や助言を行う。2015年の4月から本格運用を開始する。



安藤友晴教授

出席者へのアンケートから

当日参加された方の約半数(26名)から回答が寄せられ、報告会に来て「よかった」(16名)「大変良かった」(8名)との評価をいただいた。その理由として「活動内容の理解ができた」「地域活動の相互交流の場になって面白い」などの声が寄せられた。

また、今後への期待として、「知識意欲を刺激される場所。より多くの参加者から何かが「生まれる」場になってほしい」「学生としてもモチベーションが上がる。多くの学生が参加してほしい」などの意見があった。個別の報告についても、多くの激励の言葉、お褒めの言葉、新たなアイデア等をいただいた。

このアンケートは活動改善のため今後も継続予定。

総括

第2回の地域活動報告会は、本学の取り組みと、今後の展開について報告する場となったが、多くの参加者から貴重なアドバイスや激励の言葉をいただく場となり、大変充実した機会となった。

アンケートにもあったように、報告会は大学からの発信の場というだけでなく、参加者が改めて地域の活動を知り、相互に交流をする場所としての機能も期待される場となりつつある。

今後、さらなる地域の相互交流や、新たなアイデアの発見の場となるような取り組みを行う必要があることを、改めて感じさせる報告会となった。

レポート執筆担当: 米津直希 (本学講師)